

第20回 生コンセミナー

テーマ：コンクリート構造物の信頼性向上への提言
～打込み時スランプと生コンのグレード分け～

日時：2013年7月9日(火) 13:00～17:00

会場：名古屋国際会議場 白鳥ホール

■はじめに

国民の生命と財産を守り、安心・安全な社会を構築するためには社会基盤の整備が不可欠です。その整備のため、生コンが使用され、多くのコンクリート構造物が造られてきました。後世に良質の社会基盤を残し、安心・安全を約束するためには、この生コンが良質で、かつ適切に施工されることが不可欠です。

今回の生コンセミナーで取り上げたテーマは、「打込み時スランプ」と「生コンのグレード分け」です。これらの2つのテーマはいずれも古くて新しい問題であり、JCI生コンセミナーでも何度か取り上げられてきました。しかし、必ずしも議論が尽くされたわけではなく、現実的には、まだ多くの課題が残されているようです。

一つ目のテーマは、「打込み時スランプ」です。社会問題化した生コンへの加水問題の排除に向けて、土木学会では「コンクリート標準示方書 施工編」に“打込みの最小スランプ”なる内容が盛り込まれましたが、残念ながら、その考え方が十分に土木工事に反映されている状況下にはありません。中には工事標準仕様書では取り上げられていても、特記仕様書では依然として旧来の仕様書が適用されているケースもあるようです。一方、建築工事で参照される日本建築学会の「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事」では、土木用コンクリートよりは大きいスランプが許容されていることもあって、“打込みの最小スランプ”という考え方が顕在化する様子は見られません。しかし、現実には土木用・建築用のいずれの生コンの場合でも“スランプの上限要求”なる不思議な慣習が後を絶たず、生コン生産者にとって大きな悩み事となっています。この問題の解決のためには、“打込みの最小スランプ”の考え方が正しく理解され、また有効に活用されることが肝要と言えます。

二つ目のテーマは、「生コンのグレード分け」です。生コンの品質、性能に関する要求性能が多様化し、JIS A 5308に示されている標準的な品質基準のみでは対応しきれず、土木学会示方書・建築学会仕様書のみならず、工事特記仕様書さらには大臣認定など、複数の基準や規定でコンクリートが配(調)合設計され製造されています。このような煩雑さを避ける方法の一つとして、例えばISO規格のように、耐久性の要求条件に性能・水準の区分を設け、その中から生コンを選択できるようにすることも必要ではないか、といった意見が少なからず聞かれます。この問題に対し、将来に向けて純粋に生コン供給のあるべき姿を改めて議論することも重要でしょう。

生コンセミナー部会では、これらのテーマに関するアンケート調査を愛知、岐阜、三重の東海3県下の発注者、施工者及び生コン生産者に対して実施しました。本年の生コンセミナーでは、二つのテーマの概要説明とアンケート調査結果の紹介ののち、発注者、施工者、生コン生産者、学識者それぞれの立場から、これらのテーマについて議論していただきます。

生コンに関係する多数の皆様のご参加を願っています。

コンクリート工学年次大会2013(名古屋)
実行委員会委員長／梅原秀哲
生コンセミナー部会長／畑中重光

■セミナープログラム

1. 趣旨説明 13:00 - 13:05
生コンセミナー部会長／畑中重光(三重大学大学院)
2. 第1部 打込み時スランプについて
(1)「話題提供」 13:05 - 13:25
吉兼 亨(宇部コンクリート株式会社)
(2)「アンケート結果の報告」 13:25 - 13:40
高田浩夫(岐阜県生コンクリート工業組合)
(3)「コンクリートのスランプのあり方について」 13:40 - 14:00
上東 泰(中日本高速技術マーケティング株式会社)
(4)パネルディスカッション 14:00 - 14:55
司 会：畑中重光(前掲)
パネリスト：榎田佳寛(宇都宮大学名誉教授)
上東 泰(前掲)
栗田守朗(清水建設株式会社)
桜本文敏(鹿島建設株式会社)
吉兼 亨(前掲)
高田浩夫(前掲)
- <休憩> 14:55 - 15:05
3. 第2部 生コンのグレード分けについて
(1)「話題提供」 15:05 - 15:25
吉兼 亨(前掲)
(2)「アンケート結果の報告」 15:25 - 15:40
高田浩夫(前掲)
(3)「建築の立場から」 15:40 - 16:00
榎田佳寛(前掲)
(4)パネルディスカッション 16:00 - 16:55
司会およびパネリスト：第1部と同じ
4. 総括 16:55 - 17:00
生コンセミナー部会長／畑中重光(前掲)